



渡辺大樹さん

バン格拉デシュのストリートチルドレンを描いた映画「アリ地獄のような街」が東京・渋谷のミニシアターで上映されている。制作したのは、2004年から現地でストリートチルドレンの支援活動を続けている横浜市出身の渡辺大樹さん(30)ら。渡辺さんは「子供たちを取り巻く現実を知って」と訴えている。

渡辺さんは大学卒業後まもない02年夏、単身でバン格拉デシュに向かい、首都ダッカの大学でベンガル語を学びながら仲間とNGO「エクマツトラ」を設立。路上で子供たちに歌や踊りを教える「青空教室」をスタートさせた。

支援したかったのは、スラム街でゴミ拾いや薬物の運び

ストリートチルドレン救え

NGOがバン格拉デシュ支援 渋谷で上映中



映画「アリ地獄のような街」の一場面から

屋などをしながら親を支える子供たち。孤児ではないため、政府やNGOなどの支援も、教育も受けられない状態だった。「収入源」となる子供を手放しながら、徐々に生徒を増やし、04年4月には一緒に生活しながら勉強する「シェルター」を開設。これまでに約40人を受け入れた。

こうした活動の傍ら、渡辺

さんらが手がけたのが映画「アリ地獄のような街」の制作だった。出演者たちはエクマツトラが支援した元ストリートチルドレンたち。売春や麻薬密売に巻き込まれる子供たちにふんし、彼らを取り巻く現実を描いた。

活動は徐々に認められつつある。現在、取り組んでいるのは子供たちの経済的自立を助ける職業訓練センターの設立。約1万4200平方メートルの広い土地を購入し、技術訓練所や診療所、宿泊所、農地を建設中で、130人の子供たちが英会話やコンピューター技術などを学ぶ計画だ。

日本上映は今年21日まで東京・渋谷の「渋谷アップリンク」で行われる。一般1500円。その他の自主上映会の開催者も募集中。問い合わせは配給のユナイテッドピープル(045・212・5559)へ。